

## 私のカルテ

No 4 5 4

## 脳梗塞という怖い病気

津島市民病院 脳神経内科医師

もとはら けんた  
本原健太

「ある朝、グレゴール・ザムザが気がかりな夢から目ざめたとき、自分がベッドの上で一匹の巨大な毒虫に変わってしまっているのに気がついた」、カフカの小説『変身』の主人公である不幸な青年グレゴールは、体の自由が利かず、ベッドから出るのにもひと苦労します。

そこまで不思議なことにはならなくても、ある朝起きてみると、いつもと明らかに様子が違うことが稀ならずあります。もしかすると、それは脳梗塞かもしれません。

## 脳梗塞とは

脳梗塞とは、脳に酸素や栄養を送る血流が止まり、脳細胞が死んでしまう病気です。これは非常に恐ろしいことです。脳は様々な動きの司令塔なので、脳梗塞になると片方の手足が動かない、しゃべりにくい、飲み込みにくい、話の様子がおかしい、使い慣れた道具が突然使えないなどの症状が出てきます。寝たきり、言葉がわからない、意識が戻らないなどの後遺症が残ることも多く、最悪の場合命を落とすこともあります。

## 脳梗塞の治療

このような症状に気がついたときは、「ちょっと様子を見てみよう」とはせず、すぐに医療機関を受診してください。画像検査で診断がつき次第、すぐに治療を開始します。治療は抗血栓薬(いわゆる「血液サラサラの薬」)とリハビリテーションの2つです。

抗血栓薬はそれ以上の悪化を防ぐ薬です。脳梗塞になったとき、死んでしまった脳細胞は元に戻せませんが、その周囲の生き残っている脳細胞を助けることはできません。時間が経つほど助けることができる脳細胞が減っていくので、症状に気がついたらすぐに医療機関を受診し

てください。

リハビリテーションは失われた機能を取り戻すために行います。脳細胞はネットワークを作って様々な機能を果たしていますが、脳梗塞を発症すると、このネットワークの一部が壊れてしまいます。リハビリテーションを行うことで、脳のネットワークが再構築され、失われた機能が徐々に回復していきます。これは訓練によってスポーツや技術を磨くのと同じことなので、やればやるほどよくなります。こうした治療によって社会復帰する方もいらっしゃいます。

## 脳梗塞の予防

脳梗塞にならないための予防が非常に大切です。高血圧症、脂質異常症、糖尿病といった持病のある方は、かかりつけの先生にしっかり治療をしてもらいましょう。味の濃いものや脂っこいものを控え、野菜を含むバランスの良い食生活にすること、適度な運動も効果的です。喫煙習慣がある方は禁煙が必要です(たばこの箱に警告が書いてあるのを見たことがあると思います)。脳梗塞はとても怖い病気です。予防が非常に大切で、なってしまったときには一刻も早く医療機関を受診しましょう。

